

2016年3月9日

認定審査結果報告書

一般社団法人日本技術者教育認定機構

(1) 審査プログラム

教育機関名： 宮崎大学 農学部

認定プログラム名： 応用生物科学科

認定分野： 農学一般及び関連のエンジニアリング分野

(2) 審査結果

認定審査結果： 認定を可とする。

審査結果の内容： 別添の「審査結果」に記載。

認定期間： 2015年4月1日～2021年3月31日の6年間

(3) 次回審査の内容・手続き

次回審査年度： 2021年度

審査の種類： 認定継続審査

自己点検書の審査と実地審査による「通常審査」を実施

審査項目： 認定基準に基づく全ての点検項目

JABEEは国際的な動きも含めた技術者教育の進展や、教育プログラム側からのご意見を参考に、審査の質向上に継続して取り組んでおります。また、教育プログラムには、「技術者教育認定に関わる基本的枠組 第3章 認定の基本的立場 3.1(2)」に掲げる“優れた教育方法の導入を促進し、技術者教育を継続的に発展させる”を旨に、教育点検および改善に継続して取り組まれますようお願いしております。次回の認定継続審査においては、今回の審査で「A」と判定された項目を含め全ての基準項目につきまして、これらの観点をふまえて審査を行いますので、ご理解のほどお願いいたします。

次回受審については、審査を受ける年度に有効な認定基準、認定基準の解説、認定・審査の手順と方法、自己点検書作成の手引き等に従ってお取り進めください。

(4) 認定プログラム修了生の管理について

別添の「JABEE 認定プログラム修了生の名簿管理と修了証明書類の発行について」に従って、厳正な管理をお願いします。

(5) 依頼事項

- ・認定期間中に、学部・学科・プログラム名の変更や、認定基準に関係する事項の変更が発生した時は、変更通知提出のガイドラインおよび提出様式に従って、速やかに JABEE 事務局にお届けください。
- ・別添の「審査結果」は、JABEE の各審査過程を経た最終報告ですので、貴方で必要があれば内容の公表は可能ですが、先に実地審査後にお渡しした一次審査報告書記載の判定内容については審査の中間段階のものであり、今後も公表しないようにお願いします。
- ・審査を担当した審査チームの個人名、および JABEE から提供した審査チーム構成メンバーの個人情報については、今後も秘密厳守願います。
- ・JABEE 認定審査に関わるご連絡を E メールにてお送りすることがございますので、JABEE 対応責任者およびプログラム責任者の変更が生じた際は、速やかに JABEE 事務局 (E-mail accreditation@jabee.org) までご連絡ください。

以上

審査結果

- ・ 高等教育機関名：宮崎大学 農学部
- ・ プログラム名：応用生物科学科
- ・ 審査分野：農学一般及び関連のエンジニアリング分野

一般社団法人 日本技術者教育認定機構

2016年3月9日

番号	点検項目	ACWD判定	根拠・指摘事項
1	基準1 学習・教育到達目標の設定と公開	A	
1(1)	(1)プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。	A	
1(2)	(2)プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。	A	
2	基準2 教育手段	C	
2.1	2.1 教育課程の設計		
2.1(1) 個別基準付表 1-1	(1)学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。カリキュラムは、4年間にわたる学習・教育で構成され、当該分野にふさわしい数学、自然科学及び科学技術に関する内容が全体の60%以上であること。	A	
2.1(2)	(2)カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。	C	専門科目のシラバスには、対象学年、単位数、必修・選択、オフィスアワーなどの基本事項、学習・教育到達目標との対応、授業概要、授業目標、授業計画、授業内容、参考書、評価方法・評価基準のほか、授業の進め方、予習・復習等の内容と分量、授業改善の工夫等の項目、授業時間が示されているが、予習・復習等の内容と分量に実態にそぐわない記載がみられるので、改善が望まれる。

番号	点検項目	ACWD判定	根拠・指摘事項
2.2	2.2 学習・教育の実施		
2.2(1)	(1)シラバスに基づいて教育が行われていること。	A	
2.2(2)	(2)学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。	C	専門科目のシラバスに「予習・復習等の内容と分量」の項目を設け、多くの科目で具体的な記載があること、レポートや小テストを課していること、自習室や図書館などの利用時間の延長などの取り組みが行われていることを確認したが、予習・復習時間の記載方法に、実態にそぐわない記載がみられるので、改善が望まれる。
2.2(3)	(3)学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。	A	
2.3	2.3 教育組織		
2.3(1)	(1)カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること。	A	
2.3(2)	(2)カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。	A	
2.3(3)	(3)教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。	A	
2.3(4)	(4)教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従って教育改善に資する活動が行われていること。	A	
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法		
2.4(1)	(1)プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それに従って選抜が行われていること。	A	
2.4(2)	(2)プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の決定が行われていること。	-	

番号	点検項目	ACWD判定	根拠・指摘事項
2.4(3)	(3) 学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって履修生の編入が行われていること。	A	
2.4(4)	(4) 学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的な方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の異動が行われていること。	A	
2.5	2.5 教育環境・学生支援		
2.5(1)	(1) プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。	A	
2.5(2)	(2) 教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それによって活動が行われていること。	A	
3	基準3 学習・教育到達目標の達成	A	
3(1)	(1) シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。	A	
3(2)	(2) 学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関しても、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。	A	
3(3)	(3) プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。	A	
3(4)	(4) 修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。	A	

番号	点検項目	ACND判定	根拠・指摘事項
3(5)	(5) 修了生がプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。	A	
4	基準 4 教育改善	A	
4.1	4.1 教育点検		
4.1(1)	(1) 学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。	A	
4.1(2)	(2) その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。	A	
4.1(3)	(3) その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。	A	
4.2	4.2 継続的改善		
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。	A	

付記事項

なし

日本技術者教育認定機構
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
(建築会館 4F)
電話 03-5439-5031
FAX 03-5439-5033
E-mail accreditation@jabee.org

自己点検書

(1. 概要編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2015年度

宮崎大学農学部

応用生物科学科

(エンジニアリング系学士課程プログラム)
(農学一般及び関連のエンジニアリング分野)

Engineering in Biochemistry and Applied
Biosciences

審査分類：認定継続審査

注意：中間審査の場合、「自己点検結果」は中間審査項目についてのみ記載する

提出日 2015年7月3日

1.1 プログラム情報

(1) 高等教育機関名およびその英語表記

宮崎大学農学部

University of Miyazaki

Faculty of Agriculture

(2) プログラム名

応用生物科学科

(3) Program Title (プログラムの専門分野名の英語表記)

Engineering in Biochemistry and Applied Biosciences

(4) 学位名

学士

(5) 連絡先

・ JABEE 対応責任者氏名：村上 昇

所属・職名：国立大学法人 宮崎大学農学部・農学部長

郵便番号：889-2192

住所：宮崎県宮崎市学園木花台西 1-1

電話番号：0985-58-7148 (直通)

ファックス番号：0985-58-2884 (代表)

メールアドレス：a0d201u@cc.miyazaki-u.ac.jp

・ プログラム責任者氏名：河原 聡

所属・職名：農学部・教授

郵便番号：889-2192

住所：宮崎県宮崎市学園木花台西 1-1

電話番号：0985-58-7204 (直通)

ファックス番号：0985-58-7204 (直通)

メールアドレス：a04206u@cc.miyazaki-u.ac.jp

1.2 プログラム概要（プログラムの概要を2ページ程度で簡潔に記載する）

1. プログラムの沿革（これまでの学科／専攻・コース改組の経緯など）

○宮崎大学の沿革

宮崎大学農学部の前身は、大正13年（1924年）に設置された宮崎県高等農林学校である。昭和24年（1949年）「国立大学設置法」の公布に伴い高等農林学校は農学部として、また工学部と教育学部が編入され、宮崎大学が設置された。本学科の前身である農業化学科は、農学部の設置時に設置されている。その後、平成15年に宮崎大学と宮崎医科大学が統合され、現在、4学部体制となっている。統合後の宮崎大学では「世界を視野に 地域から始めよう」をスローガンとして掲げ、地域に根ざした教育研究の実践を進めている。

○宮崎大学農学部の改組の経緯

宮崎大学農学部は、農業を取り巻く環境や社会ニーズの変化に対応するため、平成元年度（1989年）と平成12年度（2000年）に改組を行った。平成元年度の改組において、他学科からの教員の移籍等を通じて、農業化学科を母体とする生物資源利用学科が農学部改組の中核的な存在として組織された。平成12年度の農学部再改組では、他学科からの教員の移籍を通じて充実を図ると共に、学科名称を生物資源利用学科から現在の応用生物科学科へ変更した。農学部では平成22年度（2010年）に再改組を実施したが、応用生物科学科は組織再編を行わず、学部改組に伴うカリキュラムの見直し・変更と改善のみを行った。

○技術者教育プログラム導入の経緯および認定継続の状況について

本学科では、平成13年度（2001年）から学科教育改革の目玉としてJABEE教育プログラムの認定を目指した取り組みを開始した。平成14年（2002年）に試行審査を受審し、その際の指摘事項について見直しと改善を行った。翌平成15年（2003年）、農学一般分野でJABEEの本審査を受審し、W判定を受けることなく、5年間の認定を受けた。その後、平成21年度（2009年）に認定継続審査を受審し、再び6年間の認定を受けた。その後、平成22年度の農学部再改組、および平成26年度の全学的な基礎教育（共通教育）再編整備に伴いカリキュラムの変更を行った。この際、JABEEに対し認定プログラムの変更通知を提出し、受理されている。

このような背景の中、教育プログラムのPDCAシステムの点検、およびPDCAシステムによるカリキュラムと教育手段等の点検・改善を鋭意行っている。

2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係

○修了生の進路について

平成22年度～平成26年度の統計では、応用生物科学科プログラム修了生の進路として最も多いのは食品製造業・食品関連企業（発酵・醸造関係企業を含む）であり、公務員お

よび薬品・医療関連企業がそれに続いている。すなわち、本プログラムの修了生の多くが農芸化学とそれに関連した分野（畜産製造学，水産化学・増殖学，植物育種学）に進路を定めているといえる。また，本プログラム修了生は九州地区の食品企業や発酵・醸造企業に進む者が多いことも特徴である。

○プログラムが目指す技術者像

本プログラムでは，地域社会のみならず地球規模で社会が直面すると予想される生命・食料・環境問題の解決に寄与できる総合農学技術者の育成を目標として掲げている。具体的には，

- ・動植物・微生物の生物機能のバイオテクノロジーによる解明と活用
- ・食品の機能解明とその利用および食品の安全性
- ・農業生産環境の保全

などの分野で先端的・独創的な科学技術の発展に寄与できる創造性と問題解決能力を備え，国際化・情報化に対応できる技術者の育成を目指している。

3. 学習・教育到達目標の特徴や水準

○特徴

本プログラムの学習・教育到達目標は，JABEE 基準 (a) ～ (i) の能力を過不足なく満たすよう設計している。中でも，応用生物科学の幅広い分野における課題の解決に寄与できる素養として，基礎学力を充実させることに重点を置き，学習・教育到達目標 (F) (数学，化学と生物を主とする自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけさせる) を設定している。また，新基準 (i) (チームで仕事をする能力) をコミュニケーション能力の1つと捉え，学習・教育到達目標 (C) (応用生物科学分野における技術的課題に関して国内外で通用するような記述力，口頭発表能力および他者と協同して仕事を進めるためのコミュニケーション能力を身につけさせる) の小項目3 (チームで仕事をすることの重要性を理解し，適切に行動できる) に明示し，その能力を保証するための教育に取り組んでいる。また，日本でも有数の農業生産県である宮崎県を含む九州西南暖地の地域性を教育に反映させるため，学習・教育到達目標 (A) の小項目1 (南九州における応用生物科学に関連する領域の特性と問題点について正しく認識することができる) を設定している。

○水準

本プログラムの学習・教育到達目標は，これまでこの分野で教育を受けた教員が他大学との比較をし，それらの水準を踏まえながら作成した。また，授業評価，卒業生アンケート，就職先アンケートに基づき学習・教育到達目標を検証したところ，概ね良好な回答を得たことから，学習水準の適正度は社会や学生からの要求を満たすものであると判断される。平成26年度に実施された(独)大学評価・学位授与機構による大学機関別認証評価においても，本学科のJABEEに対する取り組みについて高い評価を得ている。

4. 関連する他の教育プログラム（関連学科／専攻、関連コース等）との関係

応用生物科学科には本プログラム以外の教育コースは存在しない。転学部・転学科あるいは他教育機関からの編入学については、学務規定等に定められた方法でその可否を判定している。また、既修得単位の認定は、既修得単位認定規定に基づき行っている。なお、前回の認定継続審査以降に、編入学生1名を3年次に受け入れた。

5. カリキュラム上の特色

- 専門教育では、専門の学術を修得するに必用な専門基礎科目と専門科目を置き、基礎から応用までの順次性に配慮したカリキュラムを編成し、実施している。
- 専門基盤科目とは別に、高等学校で履修したことの理解を深め、専門科目を着実に履修できるように、1年次に学部共通科目を設けている。
- 応用生物科学科の専門教育カリキュラムは農芸化学分野に関連する科目を核とし、さらに畜産学、水産学、植物遺伝育種学に関連する専門科目を加えることで、農学の幅広い分野について総合的に学習できるよう設計されている。
- 1年次から4年次まで切れ目なく英語科目を配置し、英語教育を充実させている。
- 入門セミナーⅡなど、アクティブ・ラーニングを取り入れたユニークな演習科目を取り入れ、学生の課題発見能力や自己学習能力、プレゼンテーション能力などの涵養を図っている。

6. その他の特色

本学科には、農芸化学に加え畜産学、水産学、植物遺伝育種学を専門とする教員が所属しており（計20名、2015年4月1日現在）、それぞれの分野の基礎教育と専門教育を担当している。このような構成の学科は日本でも宮崎大学だけであり、非常にユニークである。このことは、プログラム修了生が自然科学の1分野のみに偏向しない多面的な視野と知識を身に付けて社会に出ることを可能にしている。

また、平成25年度に文部科学省の地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)「食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成」に採択され、地域を志向した教育カリキュラムを順次導入している。宮崎県や市町村、県内企業と協力して同事業を推進し、全学で地域を志向した教育プログラムの構築により地域課題の解決の即戦力となる人材養成に着手している。この事業は本プログラムの目指す技術者像を共有しており、事業推進に当たって応用生物科学科の教員、学生が深く関与している。さらに、社会からの要請に応える取組として、地域の企業や官公庁から実践的な課題を募集し、地域ニーズを反映したユニークな「公募型卒業研究テーマ」を実施している。

1.3 最近の教育改善の状況

○教育点検と改善の仕組み

本プログラムには、PDCA サイクル (P: FD 委員会および学科会議, D: 教育実践, C: 教育点検連絡会議, A: 教育効果改善連絡会議) に則した、教育活動の点検システムが存在する。教育点検連絡会議は年 2 回、学期が始まる前に開催する。同会議では、学科教員が担当する全ての講義科目や実験・実習科目のシラバスや教育内容について、改善点の報告と確認を行う。

一方、教育活動の改善システムとしては、教育効果改善連絡会議ならびに学科 FD 委員会を組織している。教育効果改善連絡会議は各学期末に開催する。学生による授業評価結果に基づき各講義担当者が作成した授業点検シートを持ち寄り、学習・教育到達目標に対する達成度、講義や実験・実習を通して見出された教育上の課題、各教員の新しい取り組みやその教育効果などについて情報交換・意見交換を行い、教育改善に役立てる。

学科 FD 委員会では、各種アンケートや授業評価の集計結果や教育効果改善連絡会議における情報・意見などに基づき、シラバス記載事項等の変更や改善、教育上の課題の指摘や対策の立案、授業参観の企画、教育点検システムの改善、カリキュラム改善のための提言などを行っている。また、JABEE の認定継続審査受審のための準備作業も、FD 委員会を中心に行っている。FD 委員会からの提言は学科会議に上程され、学科全教員での協議を経て、各教員による教育が実践される。

○教育改善の状況

教育点検ならびに改善活動は、2010 年の認定継続後も継続的に行われている。教育効果改善連絡会議と教育点検連絡会議は年 2 回、学科 FD 委員会は年に 4~8 回の頻度で開催され、教員の教育改善への取り組みに活かされている。2010 年以降の主な教育改善の事例を以下に記す。

1) 学習・教育到達目標の見直し

JABEE 基準 (i) を本プログラムの教育に反映させ、より充実した技術者教育プログラムを構築するため、学習・教育到達目標 (C), (D), および (E) を大幅に見直し、科目配置を検討した。具体的には、基準 (i) チームワーク力に関する小項目を追加すると共に、重複した内容を含む小項目等を整理・統合することで、学習・教育到達目標を具体的かつ理解しやすい内容に修正した。修正した学習・教育到達目標および科目配置は、新学期オリエンテーションの折に学生に周知すると共に、学科ホームページでいつでも閲覧可能にしている。

2) 卒業論文・入門セミナーⅡの評価基準の見直し

多くの学習・教育到達目標に関わる卒業論文および入門セミナーⅡの評価基準を見直し、学習・教育到達目標の達成度をより明確にかつ客観的に評価できるよう改善した。

具体的には、1つひとつの到達目標を評価の観点としてそれぞれ得点化し、それを積み上げることで、総合的な達成度評価を行うようにした。

3) 学生実験・実習の整理・統合と再編

専門基盤科目（2年次に履修）である「分析化学（必修1単位）」と「機器分析化学（必修1単位）」の履修内容を見直し、「分析化学（必修2単位）」統合することで、講義科目との連携を向上させると共に、学習内容の充実を図った。また、専門科目（3年次に履修）の学生実験・実習を選択必修（6科目8単位から4単位を選択）から必修3単位および選択必修1単位に再編し、学生ごとの履修歴の偏りを最小限にすると共に、応用生物科学分野の全範囲を網羅するよう体系化した学習内容を保証するよう改善した。

○前回受審時の指摘事項に対する対応

平成21年度（2009年）に受審した認定継続審査において5つのC判定に対する対応ならびに改善について、以下に記す。

1) 「共通教育（大学教育基礎科目、教養科目）、学部共通科目（学科教員以外担当の科目）のシラバスにカリキュラムの中での位置付けを記載することが望まれる。」

上記科目とカリキュラム上の位置付けを記載した資料を作成し、オリエンテーション時に学生に配布するとともに、口頭での説明を行うことで周知を図るようにした。また、応用生物科学科ホームページにカリキュラムと科目の位置付けをリストにしたページを設け、リスト中の科目名称からシラバスを閲覧できるようにすることで、学生の理解が進むように配慮している。

2) 「共通科目（1-2年次）の単位未修得学生の指導を徹底されることが望まれる。」

共通教育部（現・基礎教育部）が提供する科目について、共通教育支援室（現・基礎教育支援室）の協力により、学生の単位取得状況や履修状況をクラス担任が早期に把握することが可能になった。そのためクラス担任、何らかの指導が必要な学生に対するケアを速やかに行うことが可能になった。また、各学期の始めには、1-2年生を含む全学年を対象として、クラス担任あるいは指導教員がポートフォリオを用いて学生個別に履修指導している。さらに、学期終了時の学科会議において1-3年生の共通科目の単位取得状況や再履修の手続に関して情報を共有し、学科全体で共通科目の単位未了学生の指導を徹底している。

3) 「教員が技術士資格を取得するなど、多様化の対応が望まれる（旧基準3.3(1)と補則2も同様の指摘事項）。」

本学科の教員1名が技術士の取得を目指し、技術士第一次試験に合格した。また、修習技術者を持つ教員を1名、新規採用することで、教員の充実を図っている。

4) 「入門セミナーⅡについて、教員間の評価の幅が大きい。総合的な評価が一定の水準

に収斂されることが望ましい。また技術者倫理については、目標と評価基準をより明確にするように改善することが望まれる。」

毎年、評価点の分布を分析し、この点について教育点検連絡会議および教育効果改善連絡会議において議論し、評価の観点についてコンセンサスを得る努力を継続的に行っている。また、現在、入門セミナーⅡを含む、いくつかの科目でルーブリック評価の導入を検討している。

一方、技術者倫理については、現在の担当教員と協議し、より明確にした教育到達目標および評価基準を定め、シラバスにより周知している。

1.4 自己点検結果編の総括文

応用生物科学科は、平成 14 年度（2002 年度）の試行審査を経て、平成 15 年度（2003 年）にプログラム名「応用生物科学科」として新規認定審査を受審し、2004 年に農学一般分野のプログラムとして認定された。その後、平成 21 年度（2009 年）に認定継続審査を受審し、2010 年に認定継続が認められた。そして、このたび 2012 年度新基準による認定継続審査を受審するに至っている。

これまでの審査において指摘された事項についての改善に加え、2012 年度基準への適合性の点検、学習・教育到達目標の見直し、達成度評価基準の改善等、学科一丸となって種々の教育改善を行っている。

以上から、本プログラムは JABEE 認定基準に対して、十分に適合すると判断している。

自己点検書

(2. 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2015年度

宮崎大学農学部

応用生物科学科

(エンジニアリング系学士課程プログラム)
(農学一般及び関連のエンジニアリング分野)

Engineering in Biochemistry and Applied Biosciences

審査分類：認定継続審査

提出日 2015年7月3日

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	◎	本プログラムでは、地域社会のみならず地球規模で社会が直面すると予想される生命・食料・環境問題の解決に寄与できる総合農学技術者および研究者を育成するために、生物機能のバイオテクノロジーによる解明、食品の機能解明とその活用及び農業生産環境の保全に関わる教育を行うことを目的としている。		(T01) 応用生物科学科ホームページ 学科概要 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/concept.html)
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	◎	本学部は、創立当初から建学の精神である「勤労体験」「自学自習」「環境浄化」を支柱として発展してきた。平成元年、平成12年の2度の改組を経て、1学科1教育コースとした。応用生物科学科の教員20名が当該プログラムの人的資源である。本プログラムの修了生は、現在まで食品関連企業から製菓関連企業などの民間企業は言うに及ばず、国家・地方公務員、教員、自営業などにも就職しており、産業界・教育界・官公庁などから高い評価を受けている。	現在の教員数は20名である。	(T02) 農学部ホームページ 沿革 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/introduction/history.html) (T03) 応用生物科学科ホームページ 教育研究領域 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/staff.html) (T04) 就職先集計結果 (J01) 卒業生の就職先リスト
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	◎	企業アンケート等から把握した応用生物学に関する社会的な要求である「課題発見能力」や「自主的、継続的に学習できる自己学習能力」などの修得を保証している。		(T05) 平成27年就職先へのアンケート結果 (T06) 平成27年卒業生の就職後アンケート結果 (T07) シラバス抜粋（応用生物科学概論） (T08) シラバス抜粋（入門セミナーII） (J02) 平成27年度就職先へのアンケート資料 (J03) 平成27年度卒業生へのアンケート資料 (J04) 農学部シラバス (J05) 平成21年度就職先企業アンケート資料
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	◎	キャンパスガイド及び学科ホームページで公開している。		(T09) 平成25年度キャンパスガイド p509 (T10) 応用生物科学科ホームページ 教育内容 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/education.html) (T11) 応用生物科学科ホームページ JABEE (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE.html)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	本プログラムの技術者像は、1年生に対しては大学教育入門セミナーにおいて、2年生以上の在校生に対しては4月のオリエンテーションにおいて学生に周知している。新規採用教員にはJABEE教育に関する説明を行っている。また、学科のホームページ「JABEE」で技術者像をはじめとするJABEEに関係する情報が入手できることを教員、学生に周知している。		(T11) 応用生物科学科ホームページ JABEE (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE.html) (T12) シラバス抜粋 (大学教育入門セミナー) 育入門セミナー資料抜粋 (T13) 平成27年度オリエンテーション実施報告書 (2,3年生) (T14) 平成26年度新任者FD研修プログラム (J06) 平成26年度新任者FD研修会資料 (J07) 大学教育入門セミナー講義資料 (JABEE関係)
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？	◎	本学科の教育プログラムでは、生物と化学に関する基礎知識を十分に習得させ、応用生物化学、微生物機能開発学、遺伝子工学、植物機能開発学、植物生産化学、食品製造学および食品栄養生化学の応用生物科学分野に関する教育を行うために独自の学習・教育到達目標を設定している。本プログラムの学習・教育到達目標は、各項目に細目を加えて学生が具体的に理解しやすい内容となるようにしていることが特徴である。	平成25年度以前(旧カリキュラム)と平成26年度以降(新カリキュラム)に分けて設定した。	表1 (T11) 応用生物科学科ホームページ JABEE (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE.html) (T15) 応用生物科学科ホームページH25以前JABEE到達目標 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE_program_pre.html) (T16) 応用生物科学科ホームページH26以降JABEE到達目標 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE_program.html)
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				
1(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	◎	学習・教育到達目標(A)が対応しており、地域や国際社会が抱える生命・食料・環境に関する問題とその解決策を科学的に考える能力とその応用開発能力を身につけさせる。		表1、表2、表3、表4
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	◎	学習・教育到達目標(B)が対応しており、技術者として地域および国際社会への貢献を常に意識し、応用生物科学に関連する知識・技術が社会と環境に及ぼす影響を理解すると共に、技術者の社会的責任を理解する能力を身につけさせる。		表1、表2、表3、表4
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを用いる能力	◎	学習・教育到達目標(F)が対応しており、数学、化学と生物を主とする自然科学および情報技術に関する基礎知識を身につけさせる。		表1、表2、表3、表4
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力	◎	学習・教育到達目標(E)、(G)が主に対応しており、応用生物科学分野に関する基礎知識、専門知識および専門的な技術の問題解決に応用できる能力の修得を保証している。	学習・教育到達目標の改善のため、文言をよりわかりやすく修正した。	表1、表2、表3、表4
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	◎	学習・教育到達目標(E)が主に対応しており、デザイン能力の修得を保証している。特に、本プログラムでは、デザイン能力を応用生物科学分野における課題の解決に至るための研究・開発プロセスを多面的に考案できる能力と考え、実験等の企画を通して学習させている。	学習・教育到達目標(E)の細目の整理を行い、(E-4)として修得すべき能力を明示した。	表1、表2、表3、表4
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	◎	学習・教育到達目標(C)が対応しており、日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力の修得を保証している。	学習・教育到達目標の改善のため、文言をよりわかりやすく修正した。	表1、表2、表3、表4

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	◎	学習・教育到達目標 (D) が主に対応しており、自主的、継続的に学習できる自己学習能力の修得を保証している。特に、本プログラムでは、応用生物科学分野で求められている事柄について調べて発表する機会を与えるためのカリキュラムを組んでいる。	学習・教育到達目標の改善のため、文言をよりわかりやすく修正した。	表1、表2、表3、表4
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	◎	学習・教育到達目標 (E) が対応しており、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力の修得を保証している。特に、本プログラムでは、2年生と3年生で行っている実験で、これらの能力について学習させている。さらに卒業論文でこれらの能力を発展的に学習させている。	学習・教育到達目標の改善のため、文言をよりわかりやすく修正した。2012年度基準にあわせて、学習・教育到達目標 (E) の細目の整理を行い、(E-3) として修得すべき能力を明示した。	表1、表2、表3、表4
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	◎	学習・教育到達目標 (C) が対応しており、チームで仕事をするための重要性を理解し、適切に行動できる能力および他者と協同して仕事を進めるためのコミュニケーション能力の修得を保証している。	学習・教育到達目標の改善のため、文言をよりわかりやすく修正した。2012年度基準にあわせて、学習・教育到達目標 (C) の細目の整理を行い、(C-3) として修得すべき能力を明示した。	表1、表2、表3、表4
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	◎	表2に示すとおり、学習・教育到達目標の各小項目ごとに水準が定められており、それらに基づいて評価が行われている。		表2 (T17) シラバス抜粋 (農産食品製造学) (T18) シラバス抜粋 (畜産食品製造学) (J04) 農学部シラバス
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	◎	学習・教育到達目標は、学科ホームページ上で公開している。		(T15) 応用生物科学科ホームページH25以前JABEE到達目標 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE_program_pre.html) (T16) 応用生物科学科ホームページH26以降JABEE到達目標 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE_program.html)
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	本プログラムの学習・教育到達目標は、1年生に対しては大学教育入門セミナーにおいて、2年生以上の学生に対しては4月のオリエンテーションにおいて周知しており、各科目との対応はシラバスに明示されている。新規採用教員には学習・教育到達目標を含め、JABEE教育の説明を行っている。また、学科のホームページ「JABEE」で学習・教育目標をはじめ、JABEE関係の情報が入手できることを教員、学生に周知している。		(T11) 応用生物科学科ホームページ JABEE (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE.html) (T12) シラバス抜粋 (大学教育入門セミナー) (T13) 平成27年度オリエンテーション実施報告書 (2,3年生) (T14) 平成26年度新任者FD研修プログラム

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計されていますか？	◎	本プログラムのカリキュラムは共通教育科目（基礎教育科目）、学部共通科目、専門基礎科目および専門科目から構成されており、1、2年次に共通教育科目（基礎教育科目）、学部共通科目、専門基礎科目と専門科目の一部を配置し、3、4年次に専門科目を配置することによって4年間で学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるようにしている。		表3 表4 (T10) 応用生物科学科ホームページ 教育内容 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/education.htm)1
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	学科ホームページにカリキュラムを掲載している。		(T10) 応用生物科学科ホームページ 教育内容 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/education.html)
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	◎	学科ホームページのJABEEプログラム学習・教育到達目標の部分に各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係を明示している。		(T15) 応用生物科学科ホームページH25以前JABEE到達目標 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE_program_pre.html)
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	◎	卒業に必要な単位の70%以上が数学、自然科学および科学技術に関する内容の科目になっている。		(T19) 平成25年度キャンパスガイド p140（共通科目の履修方法について） (T20) 平成25年度キャンパスガイド p517（別表 卒業に必要な専門科目履修単位一覧表） (T21) 平成25年度キャンパスガイド p524～526（応用生物科学科に關係する科目） (T22) 数学、自然科学および科学技術に関する科目の割合（旧カリキュラム） (J08) キャンパスガイド(学生便覧)（平成22年度～平成27年度） (J09) 数学、自然科学および科学技術に関する科目の割合（新カリキュラム）
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成されていますか？	◎	各科目のシラバスに科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に記述されている。		(T23) シラバス抜粋（食品製造学） (J04) 農学部シラバス
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	シラバスは学務情報システムWAKABAから検索・閲覧できる。また、各科目のシラバスを応用生物科学科ホームページとリンクし、カリキュラム紹介や学習・教育到達目標の解説部分からもシラバスを閲覧できるようにしている。		(T10) 応用生物科学科ホームページ 教育内容 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/education.html) (T24) 宮崎大学ホームページ WAKABA学務情報システム シラバス検索の例 (https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(2)[3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	◎	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されている。	前回の継続審査において、「共通教育科目（大学教育基礎科目、教養科目）、学部共通教育（学科教員以外担当の科目）のシラバスにカリキュラム中での位置づけを記載することが望まれる」という指摘を受けたので、共通教育科目、学部共通科目のカリキュラム中での位置付けを示す対応一覧表を作成し、プログラム履修生に配付した。これによって各科目のカリキュラム中での位置付けを理解させるようにした。	(T23) シラバス抜粋（食品製造学） (T25) 共通教育科目、学部共通科目のカリキュラム中での位置付けを示す対応一覧表（旧カリキュラム） (T26) 共通教育の学習・教育到達目標一覧の例 (J10) 基礎教育科目、学部共通科目のカリキュラム中での位置付けを示す対応一覧表（新カリキュラム） (J11) 共通教育（基礎教育）の学習・教育到達目標一覧（平成24年度～平成27年度）
2.1(2)[4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	◎	キャンパスガイドと授業時間割に記載されている。		(T27) 平成25年度キャンパスガイド p154（宮崎大学共通科目履修規程） (T28) 平成25年度キャンパスガイド p516（専門科目の履修方法等） (J12) 平成27年度授業時間割表（基礎教育科目、農学部）
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1)[1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	◎	すべての科目について学期末に学生による授業評価を実施しており、評価結果は学科のFD委員会でチェックしているが、シラバスから大きく逸脱しているという評価はこれまで無い。		(T29) 平成25年度「学生による授業評価」報告書抜粋 (J13) 「学生による授業評価」報告書関連部分（平成24年度、平成25年度） (J14) 学生による授業評価結果（応用生物科学科専門科目等）
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	◎	シラバスの履修上の注意の部分に1回の講義あたりに必要な予習、復習、自主的な課題研究などの自学自習時間を記載している。小テストや中間試験を課すことにより、十分な自己学習時間が確保されるようにするとともに、レポート課題等により学生の主体的な学習を促している。授業評価結果を学科FD委員会がチェックして、自学自習時間が少なかった科目の担当者に対応を促している。特に中間試験に関しては、学生へのアンケートにおいて「中間試験を実施した方がよい」という意見が多く出されており、主体的な学習につながっていると考えている。さらに、保護者に成績表を送付し、学生の学習意欲を高めるようにしている。		(T23) シラバス抜粋（食品製造学） (T30) 学生による授業評価の結果の学科FD委員会によるチェックと教員へのフィードバックの例 (T31) 中間テスト等に関するアンケート (T32) 中間テスト等に関するアンケート結果の例 (T33) 平成25年度キャンパスガイド p516（教育課程）
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	◎	ポートフォリオにより、学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させている。		(T34) ポートフォリオの例 応用生物科学科ホームページ 教育内容 ポートフォリオH24年度入学生 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/H24.pdf) (J15) ポートフォリオ
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	◎	ポートフォリオにより各学生の達成状況の継続的な点検を学習に反映させている。また、すべての試験の答案を返却し、理解が不十分であった項目を確認するように指導している。		(T35) ポートフォリオを利用した履修指導記録の例

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	◎	1 学年55名の学生定員に対し、20名の教員（教授9名、准教授9名、助教2名）が配置されており、全教員が博士の学位を取得している。各教員は豊富な教育経験をもっており、十分な教育成果があがっていると考えている。また、技術士の資格を有している兼任講師が技術者倫理を担当しており、十分な倫理教育が行われていると考えている。	前回の審査で、「教員の多様化を図るよう民間企業の経験者を採用するなど努力されているが、教員が技術士資格を取得するなど、新規採用以外の多様化の対応も望まれる」という指摘をうけたが、その後、教員1名が技術士第一次試験に合格し、技術士補の資格をもつ教員1名を採用した。	(T36) 平成27年度キャンパスガイド p613（教員名簿） (T37) 教員の技術士第一次試験合格証（山本助教） (T38) 平成17年度卒業 JABEE修了者名簿
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	◎	学期末に実施している学生による授業評価の結果をもとに各科目の教育内容のチェックを行う教育効果改善連絡会議と各科目のシラバスの内容を中心に教育内容のチェックを行う教育点検連絡会議を学科に設置している。		(T39) 農学部応用生物科学科教育効果改善連絡会議に関する申し合わせ (T40) 農学部応用生物科学科教育点検連絡会議に関する申し合わせ
2.3(2)[2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	◎	学期末に実教育効果改善連絡会議と教育点検連絡会議を実施している。		(T41) 農学部応用生物科学科教育効果改善連絡会議議事録抜粋 (T42) 農学部応用生物科学科教育点検連絡会議議事録抜粋
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.3(3)[1]	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがありますか？	◎	学科FD委員会、農学部FD委員会、宮崎大学FD専門委員会で教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進している。		(T43) 農学部応用生物科学科ファカルティ・ディベロップメント委員会規定 (T44) 農学部FD委員会規定 (T45) 宮崎大学FD専門委員会細則
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	応用生物科学科ホームページのJABEEの教育システム関連委員会規定の部分に掲載されており、当該プログラムに関わる教員に開示されている。		(T46) 応用生物科学科ホームページ JABEE 教育システム関連委員会規定 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE_kitei.html) (J16) 応用生物科学科FD委員会議事録
2.3(3)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	学科FD委員会、農学部FD委員会、宮崎大学FD専門委員会で教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進している。授業評価結果が良好な教員や教育経験豊富な教員の講義の授業参観を行っている。各教員はシラバスのその他の部分に「学生による授業評価」から見た今年度の改善点という項目を設けて、学生による授業評価に対するコメントと改善点について記載している。		(T23) シラバス抜粋（食品製造学） (T43) 農学部応用生物科学科ファカルティ・ディベロップメント委員会規定 (T47) 応用生物科学科FD委員会議事録抜粋 (T48) 授業参観の実施記録 (J16) 応用生物科学科FD委員会議事録

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それによって教育改善に資する活動が行われていること。				
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	◎	学生による授業評価、学科FD委員会による学生による授業評価結果に基づくベストティーチャー賞の選出、授業参観の実施、教員個人評価によって教員の教育活動を評価している。また、2015年度から全学的な評価制度として教員教育活動表彰制度が施行される。		(T43) 農学部応用生物科学科ファカルティ・ディベロップメント委員会規定 (T49) 応用生物科学科教育貢献評価委員会規定 (T50) 教員の教育に関する貢献の評価に関する申し合わせ (T51) 教員個人評価項目 (T52) 宮崎大学教員教育活動表彰制度 (案)
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	学科FD委員会規定、応用生物科学科教育貢献評価委員会規定、教員の教育に関する貢献の評価指針で開示している。		(T46) 応用生物科学科ホームページ JABEE 教育システム関連委員会規定 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/JABEE_kitei.html)
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	◎	応用生物科学科教育貢献評価委員会によりベストティーチャー賞が選出され、評価の高い教員による講義の授業参観の実施している。教員個人評価は毎年実施されている。		(T53) ベストティーチャー賞の選出結果 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/act2014.html) (T54) 授業参観の実施報告例
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。				
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	◎	宮崎大学ホームページの入学者選抜要項の農学部学科のアドミッションポリシーの部分と応用生物科学科ホームページの学科概要部分にアドミッションポリシーが規定されている。宮崎大学ホームページの入試情報の中の募集要項（一般、推薦入試）の部分に入学者選抜の方法が規定されている。		(T01) 応用生物科学科ホームページ 学科概要 (http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~abs/concept.html) (T55) 宮崎大学ホームページ 入学者選抜要項 農学部学科のアドミッションポリシー (http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/ad-agr.pdf) (T56) 宮崎大学ホームページ 入試情報 募集要項 一般、推薦入試 (http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/point/26select) (J17) 学生募集要項
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	宮崎大学ホームページの入学者選抜要項の入学者選抜の実施教科・科目等（農学部）に掲載されている。		(T57) 宮崎大学ホームページ 平成27年度一般入試学生募集要項 入学者選抜の実施教科・科目等（農学部） (http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/ippan27-04-04.pdf)
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	◎	一般入試では、理科、数学、英語の得意な学生を入学させるために傾斜配点をしている。推薦入試では、人物を評価する一般面接とは別に学力の評価を目的とした面接を実施している。また、推薦入試における受験生が取得している資格や課外活動歴等の評価は一貫性をもたせるために予め定めた評価基準に基づいて行っている。		(T57) 宮崎大学ホームページ 平成27年度一般入試学生募集要項 入学者選抜の実施教科・科目等（農学部） (http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/ippan27-04-04.pdf) (T58) 宮崎大学ホームページ 平成27年度推薦入試学生募集要項 推薦入試方法等（農学部） (http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/sui27-06-04.pdf)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的方法が定められていますか？		該当しない。		
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？		該当しない。		
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的方法によって履修生の決定が行われていますか？		該当しない。		
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって履修生の編入が行われていること。				
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	編入学試験において英語と専門科目（生物化学または食品栄養学）の2科目の筆記試験と面接試験を実施することが定められている。		(T59) 宮崎大学ホームページ 入試情報 平成28年度農学部編入学学生募集要項 (http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/28shenyu_nou.pdf)
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	宮崎大学ホームページの入試情報の平成28年度農学部編入学学生募集要項に掲載されている。		(T59) 宮崎大学ホームページ 入試情報 平成28年度農学部編入学学生募集要項 (http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/28shenyu_nou.pdf)
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法によって履修生の編入が行われていますか？	◎	英語と専門科目（生物化学または食品栄養学）の2科目の筆記試験と面接試験を実施している。前回の継続審査以降は、JABEE認定を受けた高等専門学校卒業生1名を編入学生として受け入れた。		(T59) 宮崎大学ホームページ 入試情報 平成28年度農学部編入学学生募集要項 (http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/files/28shenyu_nou.pdf)
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の異動が行われていること。				
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	◎	転学部規程、転学科規程、転学部募集要項、転学科募集要項に定めている。		(T60) 平成25年度キャンパスガイド p87（宮崎大学転学部規程） (T61) 平成25年度キャンパスガイド p507（宮崎大学農学部における転学部に関する内規） (T62) 平成25年度キャンパスガイド p508（宮崎大学農学部における転学科に関する内規）
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	◎	転学部規程、転学科規程、転学部募集要項、転学科募集要項において開示されている。		(T60) 平成25年度キャンパスガイド p87（宮崎大学転学部規程） (T61) 平成25年度キャンパスガイド p507（宮崎大学農学部における転学部に関する内規） (T62) 平成25年度キャンパスガイド p508（宮崎大学農学部における転学科に関する内規）
2.4(4)[3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法によって履修生の異動が行われていますか？		前回の継続審査以降、転学部または転学科による履修生の受入実績はない。		

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。				
2.5(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	◎	前回の継続審査以降、学内無線LANが完備し、図書館にグループ学習専用室（ラーニングコモンズ）が開設された。また、宮崎大学創立330記念交流会館に生協購買部、学生支援課が開設されるなどプログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されている。また、大学COC事業の一環で、食品の分析と加工に関する実習施設「みやだいCOCフーズサイエンスラボラトリー」を設置し、本プログラムの実験・実習に活用している。安全面に関しては、宮崎大学農学部安全管理・施設環境整備等委員会規程が制定されており、「緊急時対応マニュアル 宮崎大学農学部」が配付されている。また、木花地区事業場安全衛生委員会によって、大学内の危険箇所のチェックと産業医による巡視が行われている。		(T63) 平成27年度キャンパスガイド p41(附属図書館) (T64) みやだいCOCフーズサイエンスラボラトリーに関する資料 (T65) 宮崎大学農学部安全管理・施設環境整備等委員会規程 (T66) 緊急時対応マニュアル 宮崎大学農学部 (T67) 教授会資料抜粋(木花地区事業場安全衛生委員会報告) (J08) キャンパスガイド(学生便覧)
2.5(1)[2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	◎	施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みを行っている。		(T68) 教授会資料の関連部分の抜粋(運営交付金) (J18) 教員の研究費等受入に関する資料
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	◎	主に1-2年次に受講する共通教育科目(基礎教育科目)に関しては、共通教育支援室(基礎教育支援室)が単位取得状況の悪い学生や欠席の多い学生のリストが、学部事務を通じて、クラス担任に通知される。専門教育科目に関しては、学部事務から定期的に担任あるいは指導教員に各学生の単位取得状況が通知される。担任はこれらの情報とポートフォリオにより、学生の履修指導を個別に行っている。また、学科FD委員会、教育効果改善連絡会議で学生アンケートや授業評価結果をもとに教育に関する計画や改善策が検討され、教育点検連絡会議で各科目の次年度のシラバスや教育内容をチェックしている。また、学生からの要望や意見聴取のため、懇談会を実施している。実験科目を中心としたティーチングアシスタント制度やオフィスアワー制度を設けている。	前回の継続審査で「共通教育科目の(1-2年次)の単位未了学生の指導を徹底されることが望まれる」という指摘を受けたが、現在、共通教育支援室(基礎教育支援室)が共通教育科目の単位取得状況の悪い学生への対応を行っている。	(T39) 農学部応用生物科学科教育効果改善連絡会議に関する申し合わせ (T40) 農学部応用生物科学科教育点検連絡会議に関する申し合わせ (T43) 農学部応用生物科学科ファカルティ・ディベロップメント委員会規定 (T69) 共通教育に関する学習推進の働きかけの例 (T70) 平成25年度キャンパスガイド p516(成績送付について) (T71) 宮崎大学ティーチング・アシスタント実施要項

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回は審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	◎	宮崎大学および宮崎大学農学部 <small>の</small> 教学に係る学生支援体制の諸制度はキャンパスガイドに記載されており、新入生オリエンテーションで説明を行う。講義や実験・実習の内容に関する事項は、シラバスを通して、学生に周知している。また、応用生物科学科に関する事項については、農学部応用生物科学科ファカルティ・ディベロップメント委員会規定、農学部応用生物科学科教育効果改善連絡会議に関する申し合わせ、農学部応用生物科学科教育点検連絡会議に関する申し合わせに掲載されており、学科ホームページで開示している。		(T23) シラバス抜粋 (食品製造学) (T39) 農学部応用生物科学科教育効果改善連絡会議に関する申し合わせ (T40) 農学部応用生物科学科教育点検連絡会議に関する申し合わせ (T43) 農学部応用生物科学科ファカルティ・ディベロップメント委員会規定 (T72) 平成25年度キャンパスガイド p14(学生生活の手引き) (T73) 平成25年度キャンパスガイド p502(学生支援組織について)
2.5(2)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	共通教育部(基礎教育部)とクラス担任が連携することで、個々の学生について修学状況や単位取得状況をより正確に把握し、従前より細やかな履修指導を行っている。学科FD活動においては、学生の自学自習時間の確保について種々の取り組みを行っており、教育方法についてアクティブラーニングの導入を進めており、反転授業やクリッカーを活用した参加型授業の研究と実践にも努めている。また、懇談会やアンケートを通じた学生の要望の把握、そしてそれを受けた授業改善にも努力している。		(T30) 学生による授業評価の結果の学科FD委員会によるチェックと教員へのフィードバックの例 (T74) 共通教育との連携例(英語4) (T75) 共通教育との連携例(再受講について) (T76) 成績通知書の例 (T77) アクティブラーニングを取り入れた講義の実践例(環境と生命(1)シラバス) (T78) クリッカーを用いた講義の実践例 (T79) 学生との懇談会 報告書 (J15) ポートフォリオ

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				
3(1)[1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	◎	科目ごとの到達目標、評価方法および評価基準は、シラバスの「到達目標」、「評価方法」および「評価基準」の欄に記載している。成績は、到達目標を達成するために課すレポート、小テスト、中間試験、期末試験等に点数を配分し、合計100点で評価している。		(T23) シラバス抜粋(食品製造学) (T24) 宮崎大学ホームページ WAKABA学務情報システム シラバス検索の例 (https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp) (T80) 宮崎大学共通科目の受講及び成績評価に関する細則 (T81) 宮崎大学農学部専門科目の受講及び試験に関する内規 (T82) シラバス抜粋(食品保蔵化学) (T83) 卒業論文評価方法 (T84) 卒業論文指導教員による採点表 (J04) 農学部シラバス (J19) 講義資料および合格最低ラインの答案 (J20) 卒業論文および卒業論文の評価結果
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関しても、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。				
3(2)[1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	宮崎大学既修得単位認定規定に基づいて、単位認定が行われている。		(T85) 入学手続等案内抜粋 (T86) 宮崎大学学務規則抜粋 (T87) 宮崎大学既修得単位認定規定 (T88) 共通教育科目既修得単位認定の審査の取扱い (T89) 基礎教育科目既修得単位認定の審査の取扱い (J21) 入学手続等案内
3(2)[2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	前回の継続審査以降の該当者は2名であり、上記の規定に基づいて単位認定が行われている。		(T90) 既修得単位認定通知書例 (J22) 既修得単位認定関係資料
3(2)[3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	宮崎大学既修得単位認定規定および宮崎大学農学部編入学に関する内規に基づいて、単位認定が行われている。		(T87) 宮崎大学既修得単位認定規定 (T91) 宮崎大学農学部編入学に関する内規
3(2)[4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	前回の継続審査以降の該当者は1名であり、上記の規定および内規に基づいて単位認定が行われている。		(T92) 既修得単位認定通知書例(編入学者) (J23) 編入学生既修得単位認定関係資料

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。				
3(3)[1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	◎	学習・教育達成目標の達成度は、学習・教育到達目標のA～Gに対応する各科目の単位取得によって達成される。対象科目、総合評価方法及び評価基準は表2に示すとおりであり、シラバスにも記載されている。	前回受審時の「[C]:懸念」に対する対応 2010年審査の指摘：「卒業研究に関しては同一学生に対する教員間の評価が収斂しているが、入門セミナーⅡについては教員間の評価の幅が大きい。学生への評価基準の説明をされているが、総合的な評価が一定の水準に収斂することが望ましい。また、技術者倫理については、目標と評価基準をより明確にするよう改善することが望まれる。」 改善：学科に着任した新人教員に対して、JABEE教育を含む新任教員研修を開始した。入門セミナーⅡについては、教育効果改善連絡会議にて、指導の仕方も含めて協議し、可能な限り複数の教員で指導するようにしている。シラバスへの評価基準のより詳細な記載を行うとともに、教員へは評価基準の周知を徹底した。入門セミナーⅡについては、総合的な評価結果が一定の水準に収斂したと判断できるようになった。 技術者倫理については、目標と評価基準をより明確に設定した。	表2 (T08) シラバス抜粋 (入門セミナーⅡ) (T14) 平成26年度新任者FD研修プログラム (T24) 宮崎大学ホームページ WAKABA学術情報システム シラバス検索の例 (https://syllabus.of.miyazaki-u.ac.jp/syllabus/index2.jsp) (T93) シラバス抜粋 (技術者倫理) (T94) 入門セミナーⅡ 評価基準 (J06) 平成26年度新任者FD研修会資料 (J24) 入門セミナーⅡ成績 (原本)
3(3)[2]	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？	◎	シラバスで掲げた科目ごとの到達目標は、学習・教育目標の基準1(2)の(a)～(i)に関する基礎知識・能力の社会が求める水準を考慮したものである。表2に示すとおり、学習・教育到達目標の各小項目ごとに水準が定められており、表2に示した評価方法と評価基準に従って評価が行われている。	前回受審時の「[C]:懸念」に対する対応 指摘に対して上記のように改善を行った。	表2 (T17) シラバス抜粋 (農産食品製造学) (T18) シラバス抜粋 (畜産食品製造学) (T95) 平成25年度キャンパスガイド p505 (単位の認定及び成績評価基準) (J19) 講義資料および合格最低ラインの答案 (J20) 卒業論文および卒業論文の評価結果
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4)[1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	◎	修了生はすべて、所定の学習・教育到達目標を達成している。		(T96) 平成25年度 卒業判定資料抜粋 (T97) 平成26年度 卒業判定資料抜粋 (T98) 平成25年度キャンパスガイド p145 (数学の考え方) (J25) 卒業判定資料 (平成25年度、平成26年度) (J26) 成績関係資料 (J27) 卒業時JABEEアンケート
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5)[1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	◎	当該プログラムの学習・教育目標のA～Gを修了生は達成している。学習・教育目標のA～Gは、表1に示すように基準1(2)の(a)～(i)に対応しているため、修了生はJABEE基準1(2)を達成している。学生自身もJABEEの(a)～(i)の基準を達成していると認識している。		表1 (T99) 応用生物科学科・技術者教育プログラムについての説明資料抜粋 (T100) 応用生物科学科卒業生 JABEE教育プログラムに関するアンケート集計結果

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				
4.1(1)[1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	◎	応用生物科学科では、PDCAサイクル（P:FD委員会および学科会議、D:教育実践、C:教育点検連絡会議、A:教育効果改善連絡会議）に則した教育活動を点検するシステムが存在する。この改善システムは、宮崎大学の教育改善システムと上手く連動しており、効率的に改善が行われるシステムになっている。		(T39) 農学部応用生物科学科教育効果改善連絡会議に関する申し合わせ (T40) 農学部応用生物科学科教育点検連絡会議に関する申し合わせ (T43) 農学部応用生物科学科ファカルティ・ディベロップメント委員会規定 (T46) 応用生物科学科ホームページ JABEE 教育システム関連委員会規定 (T101) 本学科の教育改善システム (T102) 宮崎大学教育内部保証システム
4.1(1)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	これらの会議の活動は、すべて議事録として学科教員に配付され、なおかつホームページに掲載されている。		(T11) 応用生物科学科ホームページ JABEE (T47) 応用生物科学科FD委員会議事録抜粋 (T41) 教育効果改善連絡会議議事録抜粋 (T42) 教育点検連絡会議議事録抜粋
4.1(1)[3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	教育点検連絡会議と教育効果改善連絡会議は1年に2回開催され、教育の改善が毎年行われている。改善点はシラバスに記載し、学生にも周知している。		(T11) 応用生物科学科ホームページ JABEE (T23) シラバス抜粋（食品製造学） (T30) 学生による授業評価の結果の学科FD委員会によるチェックと教員へのフィードバックの例 (T41) 教育効果改善連絡会議議事録抜粋 (T42) 教育点検連絡会議議事録抜粋 (T47) 応用生物科学科FD委員会議事録抜粋
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				
4.1(2)[1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	◎	毎年、学生へのアンケートを実施し、その集計結果を教育の改善に生かしている。さらに、卒業生へのアンケートや就職先へのアンケートを集計し、その要望を教育改善に取り入れている。		(T05) 平成27年就職先へのアンケート結果 (T06) 平成27年卒業生の就職後アンケート結果 (T29) 平成25年度「学生による授業評価」報告書抜粋 (T100) 応用生物科学科卒業生 JABEE教育プログラムに関するアンケート集計結果 (T103) 学科会議資料の抜粋（学生アンケートの結果） (T104) 大学機関別認証評価 評価報告書抜粋 (J28) 学生アンケート (J27) 卒業時JABEEアンケート (J29) 平成26年度実施大学機関別認証評価 評価報告書
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	○	定期的に、外部評価を行うことにより、学科の教育改善のPDCAサイクルが十分に機能しているかをチェックしている（8月に外部評価を受審予定）		(T105) 宮崎大学農学部応用生物科学科外部評価実施要項 (J30) 平成27年度外部評価報告書

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	◎	学科会議、FD委員会、教育点検連絡会議、教育効果改善連絡会議の議事録は、すべての学科の教員に配付されている。さらに、それらの議事録は、学科の会議室および学内サーバーの学科専用オンラインストレージに保管され、学科の教員全員が閲覧できるようになっている。		(T41) 農学部応用生物科学科教育効果改善連絡会議議事録抜粋 (T42) 農学部応用生物科学科教育点検連絡会議議事録抜粋 (T47) 応用生物科学科FD委員会議事録抜粋 (T106) 学科会議議事録抜粋 (J31) 学科会議資料 (J32) 教育効果改善連絡会議議事録 (J33) 教育点検連絡会議議事録
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	◎	上記のPDCAサイクルによって教育点検を行い、その点検結果に基づいて同サイクルを通じて継続的に改善を図れるシステムになっている。これらの活動は、絶えず学科会議でチェックされ、その継続性が担保されている。		(T106) 学科会議議事録抜粋 (T107) 過去のFD委員会の議事録抜粋 (T108) 過去の教育効果改善連絡会議の議事録抜粋 (T109) 過去の教育点検連絡会議の議事録抜粋 (J31) 学科会議資料 (J32) 教育効果改善連絡会議議事録 (J33) 教育点検連絡会議議事録
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	これまでに、継続的改善システムを機能させることによって、学習・教育到達目標の見直し、講義科目や実験科目の整理統合を行ってきた。	学習・教育到達目標の見直し、卒業論文の評価基準の見直し、講義科目や実験科目の整理統合を行った。	(T110) 学習・教育到達目標の新旧対照表 (T111) 卒業論文評価方法 (T112) 卒業論文指導教員採点表 (T113) 専門科目の新旧対照表 (T114) 共通教育と基礎教育の対照表 (J08) キャンパスガイド（学生便覧）